

甲斐市議会改革特別委員会会議録

1. 開催日時 平成26年7月17日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（8名）

委員長	坂本一之君	副委員長	長谷部集君
	赤澤厚君		清水正二君
	米山昇君		池神哲子君
	保坂芳子君		樋泉明広君

議長 有泉庸一郎君

欠席委員（なし）

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	中村宗和	書記	山岡広司
書記	石原大助		

議題

- 1 今後の委員会活動について
 - ・市民と議会の対話集会について
 - ・その他新規改革事業について
- 2 その他

開会 午前 9時58分

○委員長（坂本一之君） それでは、議会改革特別委員会を始めさせていただきます。

ただいまの出席委員は8名です。定足数に達しておりますので、これより第1回議会改革特別委員会を開会いたします。

本日の会議を開きます。

○委員長（坂本一之君） 初めに、今後の委員会活動についてを議題とさせていただきます。

今後の委員会活動について、委員の皆さんのご意見を伺います。

まず初めに、市民と議会の対話集会について今後どうするかについてお伺いをいたします。

これにつきましては、2年連続で、前回、前々回ということでやらせていただきました。

前回の議会改革特別委員会では、この対話集会に向けての委員会のことしか話し合っていなかったような気がいたします。それで2回ともやって、皆様方も承知のとおり、人数的にもさほどの人数は来ていない、半数を職員の方が占めている。そして、一番その成果が上がったように見えたんですけども、4月の改選の選挙においては投票率が非常に低かったと。本来の市民との距離を近づけるための対話集会が前回の対話集会の目的であったにもかかわらず、個人的、私的にはそんなに成果がなかったのかなという気がいたします。

その辺を含めて、きょうお集まりの委員さんにご意見を伺いたい。前回やった感想でも結構ですし、また、赤澤委員に対しましては一市民としてそれをどのように感じたかということで結構でございますので、皆様方お一人お一人から先にご意見をいただきたいなと思っておりますので、お願いをいたします。

それでは、長谷部副委員長のほうからよろしいですかね、率直な意見をお願いいたします。

○委員（長谷部 集君） それでは、私のほうから。2年続けてやったわけですけども、その前にアンケート調査をしたですよ。その結果を踏まえた上で、対話集会をすることがいいんじゃないかということになったんですけども、先ほど委員長がおっしゃったように、結果だけ見ると、最初の期待というのは、続けていけば、だんだん出席、参加してくれる市民がふえていくだろうという予想の中で始めたんですけども、それが、2回しかやってい

ないですけれども、2回目は下がったと、そして、投票率についても下がったということを考えますと、今後このままの形で進めるのはどうかと。

ただ、やめてしまうというのもまたどうかと。続けていくことによって、継続は力なりですので、続けていくことがいいんじゃないかなと思っていますけれども、このままの形というのは考え直さなければいけないなと思っています。それほど腹案があるわけではないですけれども、今現在は旧町の3カ所でやっていましたけれども、それをもう少し規模を小さくして自治会単位までおろして、全市が対象にはならないかもしれないですけれども、ことしはどこの自治会というようなことができれば、もう少し狭いエリアで回数を重ねていく。年3回やっていたのを5回6回にふやしてもいいと思いますけれども、そういう形が今私の考えの中では1つございます。そのぐらいしか言えなくて申しわけないですけれども。

以上でございます。

○委員長（坂本一之君） 次に、米山委員。

○委員（米山 昇君） 市民と議会の対話集会ですが、今、長谷部委員の言われたように、活性化についてこうしたことをやっていこうというアンケートも踏まえてやったわけですが、最初は議会の主に仕組みというか、あり方みたいなものを市民に知っていただくというようなことでやりましたし、2回目はテーマを設けて、地域活性化についてというようなことでやったですけれども、必ずしもその目的を達成していないというか、地域活性化についてどうなんだというようなことの議論までは深まっていなかったのかなというふうに思っています。

ただ、いきなりすぐに成果が出るということもこれも難しいことでして、やはりこうしたことを少しずつでも積み重ねていって、議会の活動についても理解をしていただくということも大事なかなというふうには思っております。ただ、どういう形でどういうふうにしたらいいいのかということは、これから我が会というか、この会の中で、今、長谷部委員がおっしゃったように狭い地域でやるということも1つの方法でしょうし、内容をもっと検討するというのもまた必要かもしれませんし、どういう方向がいいかはまた別としても、これは何らかの形でやったほうがいいと私は思っております。

以上です。

○委員長（坂本一之君） 次に、清水委員。

○委員（清水正二君） 対話集会ということで、最初の段階でそういうふうな形で議会のあり方とかそういったことを示すというふうな形の中で、いわば実験的なような形の中で対話集

会が始まったような形だと思うんですね。やってみて、対話集会の中でも市民のほうから声があるように、実際的には議会の内容がわからないというふうな形のものが2回やった中で非常に多かったように思うんです。

というのは、やはり先ほども長谷部委員が言っていましたけれども、細かいところから対話集会をやっていくような形のほうが市民に対してはいろいろなことが理解してもらえないかなというふうに思うんです。そこら辺の見直しをしたほうが、今までの対話集会を踏まえた中で、またそういったふうな形の中で対話集会を持って行って、細かいところから市民に行くような形、また方法は議論の中で、この特別委員会の中で議論を重ねていくというような形の中で、そういった方法で進めていくほうが市民に対しては議会のよりわかりやすくする。市民もそういう中で議会というものを理解してもらえないかなというふうに思いました。また、いろいろなものはこの中でまた議論を深めていくことの中でいい結果が出てくるのではないかなというふうに思いますけれども。

○委員長（坂本一之君） 清水委員、続けたほうが良いという。

○委員（清水正二君） 私は形をいろんな中で検討した中で、やっていったほうが良いと思います。

○委員長（坂本一之君） ありがとうございます。

次は、赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 私はこの議会が初めてなものですから、去年までの経緯が、こういった対話集会をしようというのはどういった経緯で行うようになったのか、その辺がわかりませんが、一市民としていろんなところから聞き及んだところによると、なかなか話がかみ合わなかったと。我々が言っても、当然執行者じゃないんで、それに対してどうこう返事ができるわけじゃないし、基本的に議会の一方通行、議会の運営はこうなっているという形の中で、そんなふうな会合は、特に敷島なんですけれども、そういった集会だったと。どうも市民は何かまいちよくわからない状況だったと。

それから、さっき委員長が言ったとおり、人数が本当に一部の限られた地区の行政にかかわった人だとか、そういった人たちが主で、本当に一般の市民の人たちの参加は少なかったというようなことは聞き及んでいます。

もう1点、ちょっと後で聞きたいんですけども、この2年間やった中の総括をしてあるのかと。その辺のところは特別委員会で、その辺のところは総括がちゃんとできて、ご意見をまた、これはできて、もしあったら教えてもらいたい。

さっき言ったとおり、こういった市民との対話等でいいんですけども、当然テーマを決めてやったということなんですけれども、基本的に総括をした中で市民にそれをまた伝達するというのも当然していかないと一方通行で終わっちゃうということもあるんで、今後こういった形の中で市民との対話というのは、当然市民の意見を市政に反映する。それは我々はそのパイプ役ですから、議会としては、当然それが議会の役目にもなっておりますので、そういった今後のやり方は、先ほど出ていますけれども、今後のやり方はどういう方法にするか。特に若い人たちを議会へ関心を持ってもらうにはどういう方法でこの集会をするのかということは検討課題だなと思っております。僕の感じたところはそんなところです。

○委員長（坂本一之君） 次に、池神委員。

○委員（池神哲子君） 今まで皆さん方がおっしゃられたのと同じでありますけれども、私……

○委員長（坂本一之君） マイクをお願いします。

○委員（池神哲子君） 今までの中で、私は3期12年で、その中で画期的な事業だったなというふうに思っています。市民との対話集会というのは今まで町のときにもなかったし、合併も初めてだったし大変有意義だったなというふうに思っています。

それで効果があるのかというのが、先が見えるのか、その近づけようとする姿勢が見えないと市民は期待して集まれるのかなという問題点があると思いますけれども、とにかくこの実践をできたということは大変な努力だったというか、やってよかったなというふうに思っていますし、これからも市民とのツールを持つことは大変大切なわけですから、もっと頻繁でもいいし、ただ1年に1回だけ恒例的にやるなんていうことではなくて、先ほどもおっしゃられたように、本当に細かく分けて、もっと市民とのかかわりを持ちながら私たちが皆さんの意見を聞いていく機会を持てるということはずごく大切なことなので、これを発展させていきたいし、もっといろんなテーマを一緒に掲げながらツールを持っていきたいと思っています。

○委員長（坂本一之君） ありがとうございました。

次に、保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 2回の対話集会、本当に事務局の方たちにも応援していただきながら、でも議員も全員が何らかの形でかかわって、まずとにかくやったということ自体はよかったかなと思います。

いよいよ内容に、検討しなきゃならない時期に入っていると思うんですけども、結構委

員会で各団体を呼んでやるのあるじゃないですか。あれは結構聞きます。ちゃんと聞いて、はっきり目的というか、そこで集約できて、この問題とこの問題についてみたいなきちっとした答えも出せたり、また、そこから出たことに対しての成果というのも上がったことも多々あるので、やはり焦点をもっと絞って、きちっとお互いが認識してやるというのが非常に大事だなと思うので、そのすきを埋めるというか、だから、さっきからちょっとお話出ていますけれども、地域にこちらから出向いて行って、そして、小さい単位であってもそこで話を聞かせていただいて対話していくという方法というのは非常に、次からの方法のまた1つのツールとしてはいいかなと。

ただ、4年終わったときに、やはりまた同じように、どうだったのと言われるわけですよ、またね。だから、前回も活性化にいたんですけれども、何かその責任であるんだなと思っていますけれども、またそういった形で継続していく。継続の方法はいろいろあるにしても、いいかなと思いますので、またぜひいろんなご意見の中でやっていったらいいと思います。

以上です。

○委員長（坂本一之君） ありがとうございます。

次に、樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 私は、議会活動という本来の任務は何かということになると、やはり市民の皆さんの要求や意見を聞いて議会へ反映させる。そしてまた我々も市民の皆さんから学ぶというのが大切だということで、この対話集会の意義は大きいと思います。ですから、大いにやはり続けていってもらいたいし、続けていくべきであるというふうに私は思っております。

対話集会で、皆さんも異口同音に言っていますけれども、そこから得られたものは大きいと。我々はそれを学びながら、また議会へそれを返していくということで、今後とも続けていってもらいたい。

以上であります。

○委員長（坂本一之君） ありがとうございます。

委員さんは全部で8名ということで、議長には一応オブザーバーという形で出席をお願いしてありますので、議長、ご意見ありましたら、個人的な意見でも構いませんので何かありますか。

有泉議長。

○議長（有泉庸一郎君） 今、皆さんが言われたような意見と大体似てはいるんですが、前回は3地区で対話集会ということでやったんですが、何人かの委員さんからも意見がありましたように、僕は、積極的に自治会、1つの自治会というんじゃなくて、何か問題のテーマを、今、議会、市で問題になっている、例えば例に挙げれば竜王駅の活性化みたいな話ですね。そういうのは地域へ出向いて意見交換を、対話集会みたいなものを開いてもっと身近な感じで、一遍に全地域を回るわけにはいきませんが、ある一定絞って何か所か行って、それを時間のある限り続けていって意見を、対話集会を行ったらどうかと思っています。

なかなか踏み出すまでが、前もそうだったんですが、時間がかかりますので、もう余り、やってみて後でどうだというような話のほうが僕はいいと思っていますので、ぜひすぐにもテーマを決めて、決めてというか皆さんで話ししてもらって、すぐにでも行動を起こしてもらいたいなと僕は思っています。

以上です。

○委員長（坂本一之君） ありがとうございます。

今、委員の皆様方の意見を聞いたところ、おおむね皆様方、やったことに関しては有意義であったということで、おおむねそのような意見があったようでございます。それから、もちろん続けていったほうがいいということでございます。もちろん1回2回の結果では出ないと。それにはやり方を変えて、焦点を絞ったりとか自治会単位とかというようなことで細かく回ったほうがいいという意見が出たようでございます。

個人的な意見でございますけれども、この改革特別委員会ではできるだけ、僕の考えですけれども多数決はとりたくありません。全会一致で、皆様方と深く議論をしながら全会一致で決めていきたいと思っておりますので、そのことを念頭に決めていきたいと思っております。

というのは、全会派から出ていただいておりますし、会派に所属していない池神委員にも出席をしていただいております。ですから、普通の常任委員会と違って全会一致を軸に考えたと思いますので、今のこの対話集会に関しましてはおおむね皆様方が賛成だと、やっていったほうがいいということでございますので、続けていくことにしていきたいと思っております。

内容については、すぐここで一、二時間で話せる問題ではありませんので、また今後いろいろ、先ほど赤澤委員からありました総括が出ておりますし、アンケートの結果も出ておりますので、それをもとにしながら、どういう運営方法をとっていったらいいかをまた次の機会でも話し合わなければなりません、対話集会、名前をどうするかに関しましてはまた今後

の検討課題かなと思います。ですから、そのような形でいきたいと思いますが、実施するかしないかということでは実施するという方向で決定してよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） 異議なしということでございますので、議会对話集会に関しましては今後も実施をしていくということでお願いをいたします。

また、これに関しましては、また次の議会改革特別委員会に諮っていききたいと思います。議会改革特別委員会がこればかりになっちゃうと、また対話集会の会議みたいになってしまいますので、その辺のやり方もちょっと考えていかなければならないのかなという気がいたします。ほかのものが前回は改革特別委員会では議論されなかったような気がいたしますので、どのようにしていったらいいか、また皆様方の意見を聞きたいと思います。それはまたその他のところでちょっと話し合いをしていききたいと思います。

それでは、次に、議題の（１）のポツの２番にありますけれども、その他の新規改革事業、新規という言葉はちょっと変なんですけれども、皆様方で検討事項ですね、議会改革に関しまして検討事項ということで、事前の通知の中でお話をさせていただきました、きょう意見がありましたらお願いしたいということで招集には書かれていましたので、皆様方にその辺をお伺いしたいと思います。

というのは、議会改革特別委員会で先日、ここに資料がありますけれども、議会の改革ランキングというのが早稲田のマニフェスト研究会と日経ジャーナルのほうで発表されました。上位300位の中には、昭和町が122位、そして山梨県議会のほうが、たしか242位かな、ということで、あとの山梨県の自治体は300位外でした。

ということで、これはどういうものかということ、ここにアンケートがありまして、例えば一問一答方式をやっているかとか、本会議場にパソコンを持ちこんでいいのかとか、住民説明会をしているのかとかというようなものを点数化して出しているものでありまして、別にこれに上位に入ったからどうのこうのというわけではありませんけれども、世間の目というのはやはり名前が上にあつたほうがいい議会のような捉え方もしますので、少しでもそういう検討を重ねていくことが議会改革につながるのではないかなと思います。

例えば、うちの改革委員会の前の活性化委員会では、一問一答方式にしたりとか、対面方式にしたりとか、インターネットを導入したりとかという改革をしてきました。それに関しましては点数化をされておりますし、また、委員会の傍聴のほうも始まりまして、委員会の会議録の公開のほうもしております。かなり進んでいるのではないかなと思いますけれども、

点数化するとまだ低いということで、これの上位には入れなかったということで、順位うちの要するに何位にあるかということも出るそうです。今、問い合わせするんで、1,400中何位かなということでまた回答が来るんで、次回のところにまた発表したいと思いますけれども、世間の目はそういう目だということを考えていただいて、そういう中で新規改革事業というか、皆様方でこういうことを検討していったらいいんじゃないかということで何かご意見がありましたらお願いをしたいと思います。

何かございますか、ここは自由に発言を。

清水委員。

○委員（清水正二君） 今、マスメディアか何かの発表かどうか知りませんが、現実には山梨県議会が200何位ということで、自分らが見る限りであれば、それであれば甲斐市議会はもっといってもいいんじゃないかなというふうな感想を持っていますけれども、実際に、我々今2期目ですけれども、1期目やって、その前のときに一般質問等のそういった質問者のパーセンテージも前のときに新聞報道なんかでいろいろあったわけですね。そういったことの検証であるとか、やはり傍聴者の数の前回と前々回というか、4年前と8年前ですか、そのときのものとか、そういったことのもやはり市民にアピールしていかないといけないし、そういったことを市民に示すことでもってやはり関心が高まってくる。

我々もやるけれども、要は、対話集会もそうですけれども、やはり市民が関心を持っていない。議会だよりにしても、議会だより、せつかくいろいろなものを発信したり、いろいろなそういうことの、例えば対話集会の内容にしても意見交換会にしてもやっているんだけど、質問内容を見ているとそういうものが全然反映されていない。やはり我々も改革しなきゃいけないけれども、市民に対するそういうものの意識というものを改革していくような改革をやっていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思いますけれども。

○委員長（坂本一之君） 清水委員からお話がありましたように、市民の方にもわかりやすく伝えるということとともに、市民の方にもそういう意識を持ってもらうにはこちらからアプローチをしたほうがいいということですが、ほかに何かありますか。

樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 1つは対話集会の、先ほどどこか委員さんから話がありましたけれども、対話集会の今まで積み重ねたいところ悪いところの総括をやはりきちっとやるということと、それから議会改革、これに対する総括も、どういうふうな前進をしたかと、発足当時から比較してどういうものが改革されていったかということのもきちっと出すということと、

それから、私は特にアンケートを、これは層がだんだん違ってきますので、やはりアンケートなんかもちきちとやって、それをまた議会へ、この委員会にも反映させたり、また議会にも反映させていくということも必要ではないかなと、こんなふうに思いますし、特に旧3地の町村の、3地区での皆さんの意見はまた違うと思うんですよね、要望も。そういう点も含めて一度また検討してみたらどうかなというふうな考えを持っています。

以上であります。

○委員長（坂本一之君） ほかにございますか。

議会改革特別委員会ですので、議会を変えるということでございますので、前回の議会改革特別委員会の総括というのは多分そのまま終わっちゃったのかなという気がしますので、今、樋泉委員が言われたように、やはり総括をしてほしいと思っておりますし、いわゆるアンケートというのは、ほかの地区では無作為に2,000人に、10万人ぐらいの市なんですけれども、議会改革についてのアンケートを2,000人に出して、回答率が50%ぐらいで、それをもとに議会改革を進めたという、ありますので、そういうアンケートも大事なのかなという気がいたしますし、また、定数とか報酬に関しましても、これは削減するとかそういうこと前提ではなくて、やはり議論に上げて話し合っているということも市民に知らせることも大事な1つかなと思いますし、前回、長谷部委員が議長選の所信表明で言いましたけれども、議会のホームページを変えてくれという、たしか話をしたような気がいたします。

市のホームページは変わったんですけれども、議会のホームページは変わっていないので、昔のままということで、ちょっと私も改革に向けてほかの市と比較してきたんですけれども、議会改革についての何も載っていないんですよね。例えば、いつ一問一答が導入されたとか、委員会の傍聴ができるようになったとかという、そういうのが時系列にも何もなっていない。いわゆる総括はしていないということだと思えるんですけれども、そういうことも載っていない。

だから、こういう会議を例えばやって、もちろん議長の諮問委員会ですから、中間報告、こういうことが上がっています、こういうことに対してこういうことをしようと思いますという報告も議長のほうにもしてありません。ですから、本来の特別委員会という体をなしてなかったのかなという、私は厳しい意見ですけれども、しておりますので、そういうこともホームページ上には載せて、今、議会では、特別委員会ではこういうことを話し合っていますということで、それに対してご意見がありましたらお問い合わせくださいみたいなことも、やはりホームページも変えていなければなりませんし。

今こういう教室的なやり方なんですけれども、希望は本来ならばフリートークでやりたいと思いますので、委員会室Bを使って、みんなで顔が見えるようにして自由にやりたいというのが私の希望ですけれども、事務局に問い合わせしたら、放送設備はありますけれども録音システムがないということなので、そういうことは今後も、ほかの市とか県ではほとんど委員会も教室形式は今やっていません。ほとんどがみんな顔が見えるような形でやっています、その後ろに事務局がいるような形でやっていますので、そういう要望も議会改革の1つとして放送設備とか録音システムを変えたらいいんじゃないかということもやっていくこともしかりだし、あとは休日議会とか夜間議会というのもまた検討に入っていかなければ、先ほど清水委員のほうですかね、傍聴者のこともありましたので、そういうのも検討事項なのかなと思います。

皆様方個々にいろいろな意見は持っておりまして、たくさん出てくるかと思います。一応私としてみれば、一度会派に帰っていただいて、議会改革でこういうものを検討したらいいかというものがありましたら上げていただく。そして、それをやはりだらだらやってもしょうがないので、短期、中期、長期というような形で、先ほど言った対話集会ならば短期でやらなければならないもの。そして、例えば定数とか議員報酬に関しましては、これは長期でやらなければならないという形になると思います。そういうもので決めて、途中でやはり半年に1回とか3カ月に1回とかという形で議長に答申をして、こういう結果だったとか、また継続であったりとかというような形でしていかなければなかなか伝わらないかと思っただけ個人的には考えております。

ですから、一度また会派に帰っていただいて、こういうものも上げていただきたいというものをまた皆様方に次の機会は考えていただきたい。なければですね、私のほうでほかの市の改革をしたものも調べてありますので、こういうものがほかの市では改革の検討課題として上がっていますので、その中で甲斐市にふさわしいものはどれかを選んでいただいて、皆様方と一緒に進めていきたいなと個人的には考えております。

そんな形なんですけれども、ほかに何か皆さんご意見ありましたらお願いをしたいと思っただけ個人的には考えております。

米山委員。

○委員（米山 昇君） 今、委員長がおっしゃったと同じことになると思いますが、先ほど、早稲田大学ですか、ランキングが出されましたが、そのとおりというか、それがいいかどうかは別としても、一応参考に、どういうところがどういう評価で上位になったのかというこ

ととか、中には、私どもがちょっと行って研修した中では、委員会を全部インターネットで放映しているというようなところもありました。

実質審議をするのは委員会ですので、委員会でどういう審議がなされているのかということをやはり市民に知らせるといことも非常に大きな大事なことではないかなと思っておりますが、そういうところもありましたので、そういうところがどのくらいあるのか、それはどういう評価にされているのかというようなこともやはり1回調べて、甲斐市にふさわしい、議会としてこういうことに取り組んだらどうかというものがあれば、もちろんお金もかかることですので、施設を直さなければならんとかいろんな制約がありますけれども、ちょっとそういう下調査といいますかね、そういうものをして、ある程度絞り込んでいったらどうかというように思っております。

○委員長（坂本一之君） ほかに。

長谷部委員。

○委員（長谷部 集君） 先ほど委員長のほうからホームページの話をしていただきましたけれども、先ほどおっしゃったように市のホームページがリニューアルしておりますので、やはり議会はしたほうがいいじゃないかというのが私の持論でありまして、それとあわせて、今、議会だよりもそうですし、市民への広報事業というものを見直す時期が来ているのかなと思っております。それには、どのように変えるのかという前に、市民の人たちがどのくらいそれを利用して、どういう感想を持っているのかというのはやはり知ってみたいと思いますので、これまでのいわゆる定数だとかそういうことに対する市民のアンケートではなくて、広報活動に対して、市の広報のほうで広報をリニューアルするときとかホームページをリニューアルするときにとったアンケートのような、そういうアンケート調査というのを議会に対して1回してみるのも必要かなというふうに思っています。

先ほど米山委員が言ったような委員会の放映もそうですし、例えばホームページのリニューアルもそうですし、予算づけが必要なものというのはやはり出てくるわけですね。それはもう、ことしやろうと決めてもことしできることではありませんので、その予算づけが必要なものに関しては、長期ではなく、短期ではなく、中期の予定という中で、来年をそれを見据えるのであればことしの予算措置の時期までにはその話をしなければいけないですし、そういったタイミングもまた考えていかなければいけないかなと思っております。

あと、別な話ですけれども、たしか前回の改革の委員会の中で、通年議会に関しては保留事項になっていると思っておりますので、それを今後どうしていくのかというのも、するかしない

かというよりも、どういう扱いをしていくかということもまた考えていかなければいけないかなというふうに思っています。

あと、もう1ついいですか。

○委員長（坂本一之君） どうぞ。

○委員（長谷部 集君） 今度は我々議会の中の話ですけれども、よく坂本委員長もおっしゃっているペーパーレスも含めた議会内でのデジタル化ですね。いろんな議案書とか資料というものをデジタルデータで欲しいという議員もふえてきておりますし、そういうことで当局のほうに要望をしていくことも1つですし、また、この4階も含めた中で庁内で整備ができればいいんですけれども、Wi-Fi環境というものをやはり整えていく。難しいのであれば、4階だけでもそういうことができれば、前年度話が出た各会派室にパソコン1台みたいな、それなりの経費がかかることをしなくても、自宅のパソコンを持ってくればその自分のパソコンを使えるというような、そういう環境も整えていく中で、委員会や議場へのデジタル端末の持ち込みということもまた検討していただければなというふうに思っています。

以上です。

○委員長（坂本一之君） 今、長谷部委員の言われていましたWi-Fiに関しましては、ほかの、どこだったかな、ある市は議会改革の中で4階だけというか議場、議会のスペース分だけは取り組んだところがありました。そのように、今言っただけでも通年議会、そしてICT化の問題、Wi-Fiの問題、そしてアンケートの問題というような形で、かなり項目、検討事項が今の中でも4つぐらい出ているのではないかと思います。これをまとめて、次回には皆様方にお示しして、検討するものやっつけていこうと。

そして、先ほど米山委員からもありましたように、委員会の放映というかネットで中継する。今、事務局のほうも委員会主義ということを中心に言っておりますので、委員会の議論が盛り上がっていることを伝えることも1つのあれかと思えますけれども、それはお金がかかるので中期でやるのかという問題もあります。それだけでも、もう5つ6つぐらい上がっています。

赤澤委員、ご意見があればお願いします。

○委員（赤澤 厚君） 基本的に、議会改革と一言で大変難しい問題なので、先ほど何かランクが昭和町が山梨ではいいということで、特に昭和町の場合は報道関係を使って、よく山梨学院大学の先生なんかを呼んで講演なんかしたり、あの辺がかなりPRがうまいというか、あれは。そういったものがあるのでランクが上になっているのかな。正直言って昭和町議会

の内容等は僕はよくわかりませんが、そういった面では、PRと申しますか、そういうものが意外とそういったランクになったり評価に結びついているのかな。

その点、先ほどから出ているとおりのようにPRしていくということが一番肝心だと思うんですね。特に甲斐市として何をやるのかというものをきちっと明確に出していかないと、二番煎じ、三番煎じ、よそがやっているからこうじゃなくて、うちとしたらこうだと、こういうことをやるんだという明確に何か目標を立てて、それをまず第一にこれを改革しよう、これをまず1つしようという形をとっていったほうが、余り多くのものを取り入れるよりも、まずこしはとりあえずこれをしようというような形でいったほうが僕はいいと思う。

それから、もう1点、先ほど委員長が言ったとおり、これは議長の諮問機関ですね。議長から特別委員会を立ち上げたいという意見があつてこういう組織をつくったものですから、もし議長のほうで、今度、有泉議長が誕生して、私は議長としてこういう議会改革、議会を運営していきたいという、もし考えがあつたらお聞かせいただければありがたいなと思いますけれども。

○委員長（坂本一之君） ほかに何かありましたら。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 率直な意見なんですが、市民の立場としてなんですが、CATVがありますよね。テレビやはり使って議会の放送を、例えば笛吹かな、あと北杜、甲府、CATVやっていますよね。抜群のPRかな。私たちが甲斐市でつけても北杜が出てくるという、最近北杜が多いなと思っているんですけども、例えば4年間の中で1年間だけでもやれないかなとか、甲斐市の議員の顔がテレビに映るといのは、これはすごいやはり私はあれだなと思う。本当に何というか初歩的なあれなんですけれども、皆さん方どんなふうに思っていますか。

私はテレビつけると、それ結構ね、やはり何やっているかなって見るじゃないですか。北杜の議員の顔が映ったり、市会議員のですよ。それから、甲府も映るじゃないですか。やはり緊張感が全然、議員の緊張感が全然違うなという、1つそういうのを聞きますので、無理なんでしょうけれどもね、無理なのはわかって言っているんですけども、これに今インターネット、最新の進んでいるというのでいいんですけども、やはりテレビはこのうちにもあるのでみたいなことは、これはいいです、一応私はそういうふうに感じましたのでお伝えします。

○委員長（坂本一之君） それに関してはまた皆さんご意見もありますけれども、一応検討課題の中へ加えてすればいいことでありまして、無理か無理でないかということは、自分とこのまちにケーブルテレビの会社があれば一番手っ取り早いんですけれども、甲斐市はないからできないというのが一番初めの意見。ただ、録画を自分たちでして、それをCATVに流してもらうということは可能なのかなということがありますけれども、これは検討課題で、もちろん銭がかかると思います。全て銭です。お金です、はっきり言って。その点は要望していくことも改革の1つであろうし、しますよね。

ほかに何かございますか。

清水委員。

○委員（清水正二君） いろいろ改革の中ということであれば、前からの懸案事項であります議長車の問題、これをやはり、もうかなりの年数がいっていることでありますし、これをどういうふうな形でというか、ある程度もう結論的にいくような形でもって議論を深めていくほうがいいかなと思います。

○委員長（坂本一之君） これも項目の1つとして上げていただいて、また、みんながこれは話し合ったほうがいいだろうということになりましたら検討事項に、ガソリンも170円超しそうですよね、その辺はまた検討していかなければならない。ただ、車検はことし通ってしまったのかな。

〔発言する者あり〕

○委員長（坂本一之君） 前回結論が出ていてもまた検討事項に上がったということで、また検討する場面が出てくるかもしれないということですね、よろしいのではないかと思います。もう前回終わったからこうとかということではなくて、少しでも前に進むためにはどんどん意見をだしあって。

ほかに何かありますか。池神委員、何かございますか。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 今までのご意見の中で、今はその他新規改革事業についてのところをやっているんですね。

○委員長（坂本一之君） はい。

○委員（池神哲子君） 休日議会、夜間議会、それから、子供議会なんていう例がありましたね。それは全部していないわけですよ。それをやはり1つずつやっていってほしいなというふうに思うんです。皆さんが参加しやすいようにということで、この前のたしかあれは地

区ごとというか地区でやりましたね。あれもすごくよかったですよね。ともかく、何回もというわけでもないんですけれども、やはり回数を重ねるのがすごく大事だと思うんです。ですから、テレビとか何とかもあるといいとは思いますが、すぐできるという方法で、すぐ行動を起こしてもらいたいとさっきご意見がありましたけれども、私もそう思っています。

それで、夜間議会というのをやりましたよね、一度。あれは夜集まったんでしょう、違ったんですか、あれ。

〔発言する者あり〕

○委員長（坂本一之君）　　うちは僕らが町のころですかね。

○委員（池神哲子君）　　何か夜集まった……。

○委員長（坂本一之君）　　市議会になってからは多分やっていないですよ。

○委員（池神哲子君）　　休日議会はやったということですか、じゃ。今までに上がっていた中で。

○委員長（坂本一之君）　　やっていないと思います。

○委員（池神哲子君）　　じゃ、子供議会はもちろんやってないですよ、まだね。そういうのを……

○委員長（坂本一之君）　　それはまた議題に上げてね、今後、そういうものが池神委員から上がったのでやっていったほうがいいということになればまた検討するということ。実際問題、そういう議会やって、あと模擬議会とか、一般の市民の方に議長になってもらったりとか写真を撮ってもらったりとかいう、議員になってもらって質問をしてもらったりとかという模擬議会というのをやっているところもあります。いわゆる先ほどありましたけれども、市民にいかにアピールをするかという項目になりますので、それも次の検討課題の中には上げますので、皆様方がそれはやったほうがいい、検討したほうがいいということになれば進めていきたいと思しますので、意見は賜りますので。

○委員（池神哲子君）　　やってほしいです。

○委員長（坂本一之君）　　ほかに何かありますか。

樋泉委員ありますか。

○委員（樋泉明広君）　　今、話がありましたけれども、議会の開会を夜やったり日曜日にやったり土曜日にやったりということを前から私は言っておりますが、そういう機会があればここでまた検討していただいて、広く市民の皆さんに傍聴していただく機会をつくるというこ

とも大事なかなというふうに思っております。

○委員長（坂本一之君） 皆さん、大体検討、こういうのをやったほうがいいということで、今、聞いただけでも10個ぐらい出てきたんではないかと思います。

それで、先ほど赤澤委員からお話がありまして、議長のほうからということがありましたので、議長の意見を求めます。

有泉議長。

○議長（有泉庸一郎君） 確かに僕も議長になるときの表明でいろいろな自分の思っていることも言わせてもらいましたけれども、当然、対話集会を初め市民に対するPRとか啓蒙というの、これも非常に重要なんですが、もう1つ僕が皆さんにお願いしたいのは議会内の改革です。例えば、今回もこの特別委員会の人選をするときに、会派から必ず1人と無会派の方にも参加願ったというのはその1つなんですけれども、要するに、みんなの意見をこういうふうに反映できるような議会の組織にしていきたい、それが僕の願いなんですよ。

これは今やられてもいいのかどうかというのも皆さんで議論されることだとは思いますが、議会運営委員会の立場とか議会運営委員の選び方というのも僕は今の現状だとちょっと問題があるような、私個人としてはそういうものを思っているわけです。そういうことも、そればかりに限らないわけですね。議会内のことも議会のこの改革特別委員会で議論してもらいたいというのが僕のお願いということなんです。個々にいろいろ話し出すといういろいろありますので、また議論していく中でまたお話しになると思いますので、一応念頭に入れていただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（坂本一之君） 今、議長のほうからいろいろ委員会に関しての意見があったようでございます。

今、皆様方からさまざまな改革事業についてお話をいただいたところでございます。

そこでまた、後でその他のところでまたお話をさせていただきますけれども、先ほど来お話がありましたように、この改革委員会は恐らく二本立てになるんではないかと思います。先ほどの対話集会についてをこの中でもんでいかなければならないということが1つと、そして検討事項をやっていかなければならないということで非常に作業が多くなります。

ほかの市を見ますと、この改革委員会の中に専門部会というものをつくって、要するに皆様方から拙速にやったほうがいいというものを上げたものを部会の中へ振って、例えばこちらは対話集会を進めてください、こちらは休日・夜間議会について進めてくださいというような形で、この中で全体でやらなくて専門部会のほうでやっていかないと、要は全体が集ま

るといのは月に2回ぐらいしかないのかなと思っていますので、そういう中でやっていただきたいという方向もあります。

それについては皆様方の意見をまたその他のところで聞きますけれども、そういうふうにしていかないと、やる項目が非常に改革委員会多くなりまして、本当に1週間に1回ぐらいやっていかないと終わらないんじゃないかという形がしますので、その辺の進め方に関しまして、もうその他に入りますけれども、どういう形で進めていったらよろしいかと考えますでしょうか、ご意見をいただきたいと思います。

個人的には、やはり本会議がないときは月1回、今、常任委員会をやっているのかな、広報以外は。ですから、特別委員会も恐らくその間を縫ってやるとなると事務局等が、意見の取りまとめとかも次の資料として残すことを考えると、せいぜいやっても月2回ぐらいが精いっぱいではないかと。これ月1回やっていると12回しかありませんので、対話集会でまた終わってしまうような気がしますので、月2回ぐらいは私個人的にはしていきたいとは思っております。

皆さん、ご意見ありましたら、もっとやったほうがいいとか、どうしたらいいとかありましたら。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 先ほども言ったんですけれども、やはりいろんな意見が出ているんですけれども、やはり何かに絞って、今年度はこれをやるという1つのものに改革、今、議長が言った議会内の改革をするのか、ほかのものはちょっとお金もかかる、費用もかかるということになると、とりあえず議会の中の改革を今年度はしようという1つのテーマを持ってやっていかないと、余りにも委員長言ったようにテーマが多過ぎちゃうとなかなか1年ではとても終わらない。4年かかっても終わらないような事業になります。継続で当然残すものは残してもいいんですけれども、とりあえず今年度はこれをするんだという1つのテーマを決めてやっていったらどうかなと思いますけれども。

○委員長（坂本一之君） 赤澤委員からはテーマを絞ってやったほうがいいということで、ほかに。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 今、議会内改革と対話集会と2つの方向なので、2つに分けて、月2回はやっていくということで、2カ月に一遍かには一緒にやはりやらないとあれなので、それぞれその報告をして、二本立てで分かれてやってもいいんじゃないかと思えます。

○委員長（坂本一之君） それは専門部会みたいな形でやるということですね。

ほかにありましたら。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 保坂委員がおっしゃった2回ぐらいはやはりやっていくべきだなと思っていますから、いいと思います。

○委員長（坂本一之君） ほかに。

米山委員。

○委員（米山 昇君） やはりこれだけのボリュームがあれば月2回ぐらいはやむを得ないかなと思いますが、ただ、今8人ですよ。2つに分けて4人でというと何か少ないような気もしまして、全員でやったらどうかと私は思っています。

○委員長（坂本一之君） ほかに。

〔発言する者なし〕

○委員長（坂本一之君） ほかになければ、月2回ぐらいということは皆様方ご了承願えるかなと思うんですけども、やり方については、今、分かれたほうがいいという意見と8人なのでみんなで進めていったらいいなという意見がございますが、その点についてどうでしょうか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 僕も米山委員の言ったことに賛成します。基本的に我々は一応この議会改革特別委員会という1つの組織を任されたんですけども、事業を行う上においては、これは全員の議員さんでやっていくということをお願いして、やはりとても4人でこなせる事業だと思いませんので、やはり全員の皆さんで2つに分けた中でやっていくという形が、僕もさっき米山委員がいったように、その意見に賛成したいと思っておりますけれども。

○委員長（坂本一之君） ほかに。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 今のお2人の意見に賛成です。やはりみんなでやることに。4人とかではなかなか進まないってわからないから。

○委員長（坂本一之君） わかりました。

清水委員。

○委員（清水正二君） 先ほど委員長が提案したのは、部会ということの中で委員会とは別に、別というか、その中から部会でもってある程度の項目を練って、この委員会でまた議論とい

うふうなことですから、やはりそこに議論するというのであれば、月2回でこれだけ、これまであれですよ、委員長が先ほど言ったように、会派へ戻って会派の意見もまた集約してくるというような形の中ですから、またいろいろ出てくるかもしれません。そういう中でもってやはりこの課題の中で議論をしていくということは、ある程度多く議論をしないといけない。月に2回、今の中で皆さんもいいというような、私もそう思いますけれども、やはりそれを深くやっていくということでは、部会というか、そういう中でもってある程度の議論をしていくということも必要ではないかと思うんです。そういうふうにしていかないと、やはりその中で踏まえて、また月2回の中でもんでいくという形のほうが私は望ましいかなというふうに思いますけれども。

○委員長（坂本一之君） 清水委員で言うと、部会の会議は不定期でやっていただいて、全体で集まるのを2回ということによろしいんですかね、保坂委員もそういうことですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） ということらしいです。

樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 先ほど委員から出た意見なんです、やはりとりあえず8人でスタートということで、徐々に、これは専門部を設けたほうがいいということであれば分かれてやるということで、最初から分かれるんじゃないかと、まずみんなで出発するというのが大事かなと。その中からいろいろ意見が出てくるから、それを集約しながらやっていけばと。議題も提案するときには決まっているわけですから、それはそれでみんなで検討していくということで、途中から分かれ道になるかもしれませんが、専門部になっても構わんと思うんですけれども、そういうことでいったらどうかなと思います。

○委員長（坂本一之君） 意見がありまして、専門部というのは、もちろん先ほど各会派へ帰って改革したいものを上げてもらいたいということでございますので、すぐに分かれるという意味ではございませんで、意見が上がった中で検討課題をどれを選んでいくとかということが終わってからでないかと分かれることも多分できないかと思えます。

とりあえず今回はその検討課題を上げてくれということをこちらのほうで提案はさせていただきます。そして、上がってきたものを第2回目で皆様方に振り分けてもらう。これはやらなくてもいい、これはやったほうがいいということで。最終的には赤澤委員が言うように今年度これというように決めるのか、それとも同時でできるものは同時進行をして考えていくのかということもやっていけばいい。例えば子供議会とか夜間議会とか休日議会というの

は、そんなには時間がかからなくてもできるのではないかと、予算もそんなにはかからないということでもありますので、そういうものは同時進行もできるのではないかなと思いますし、それが終わったらまた次の検討課題に入るといふことであれば進んでいけることもできるのではないかなと思います。

その辺でいきたいと思いますけれども、長谷部副委員長、何かありますか。

○委員（長谷部 集君） おおむね、今、委員長が言った形でいいかなと思います。当初、委員長が言ったように、全て全会一致で決めていきたいというんですが、その方向性でいくのであれば、分かれるよりはみんなでいったほうがいいんじゃないかなというふうに思います。分かれる機会があるとすれば、最終的に具体的な作業を進めなきゃいけないという場面においては、これは分かれたほうが効率がいいので分かれる必要があると思いますけれども、総論といいますか、骨子的なものを進めていく上では、8人全員で話をしていって、樋泉委員が言うように、分かれたほうがいだろう、効率がいいだろうというときには分かれるというようなスタンスでいいかなと思います。

ことしは何を主軸にいくのか、1本をとという話がありましたけれども、私はどちらかというのと、1本柱を決めるのはいいと思うんですけれども、それだけでいくというよりは、中期的、長期的な話もありますので、それはそれで並行して進めなければいけないと思っていますので、その中期的、長期的なものを並行して進めなければ、また来年、再来年という話になりますといつまでたっても中期的、長期的な話になってしまいますので、それはそれで並行して進めていくべきではないかなと思っています。

先ほどからおっしゃっている対話集会につきましては、ある程度のところまで、スピードを要しますけれども、この改革委員会の中で進めれば、あとは対話集会の全議員を対象とした、今までも班体制なんかしていましたけれども、そういった中で具体的なことは進めていくと思いますので、そういう意味では改革から手を少しでも早く放すという、そういうスタンスがいいかなというふうに思っています。

○委員長（坂本一之君） おおむね今ご意見をいただいたところでございますので、今、副委員長がおっしゃったように、ある程度の作業部会みたいな形になるのではないかと、そういうときには離れたほうがいいという意見もございますので、そのような方向で進めさせていただきます。とりあえずは全員で、全会一致を見ながら、意見を今のように全員の方に私は意見を言っただくスタイルをとりたいと思っておりますので、そのような方向で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） それでは、そのような形で進めさせていただきます。

議長、それで意見ございますか。

なければ、一応その他なんですが、ほかに委員の皆様方から、その他何かありましたら。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） ちょっと確認なんです、議会内改革というのは会派、今から会派に持ち帰ったりするので、こんな改革、こんな改革と出てくると思うんですけども、対話集会に関して何を会派で決めてきたらいいか。これがいいという、ちょっと決めていただけますか、対話集会に関して。大まかなこんな意見ということでもいいんですか、それとも例えば、やると決まっているので対象をどうするか、いつやるか、その辺を決めてくるのか。そういうのを決めてきちゃったほうが早いと思うんですけども、それをちょっと聞きたいと思います。

○委員長（坂本一之君） 私個人的には、もうやることに決まったんで、あとはやり方の問題で、先ほどいろんな意見が出ましたですよ。それで、改革委員会では、例えば自治会単位とかって、そういうところへ行ったほうがいいのかという意見がありましたよということを行った上で、会派の方に意見を、いや、そうじゃないよ、やはり全体でやったほうがいいのかという意見があったら、そこで議論をしていただいて、できれば一本化をしてここへ持ってきていただきたい。

そういう意見があったかもしれませんが、やはり細かくやったほうがいいのかという意見が多数でしたので、うちの会派としてみればそうしたいというような形でやっていって。もちろん多様な意見はいいですよ、どんどん聞いていただいて。ただ、一本化してきていただいて、そして、こういう意見もありましたということはこっちへ伝えていただければいいかと思います。それをまたみんなで話し合う。

例えば、細かくやるのはいいけれども、先ほど議長が言いましたけれども、竜王駅の問題で竜王新町地区でやりたいといっても竜王新町以外の人も行ってもいいのかという意見があったら、それはみんなで話し合えばいいことだと思いますので、別に少数意見を切るということではありませんけれども、ある程度まとめてきていただいて、そういう意見もあったということは、それはまたみんなでどうするかを話し合っていくということで、会派で話し……。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 自治会というのも、今まで3地区でやってきたのを、ここでもんで、もっと小さい単位がいいんじゃないかという意見が出ただけけれどもということで話を持っていくということですね。

○委員長（坂本一之君） はい。

○委員（保坂芳子君） それから、テーマに関して、地域活性化ということはこの間やったんだけど、恐らく、やはりこれは竜王駅活性化というのが何と云って一番出てきそうな感じなんですけれども、それをその自治会でというお話がさっき出たけれども、私すごくいいと思うんですよね。だから、そういった感じの話で持っていくような形で持っていきたいなと思っているんですけれども、うちも多分そういうふうになると思うんですけれども、その辺のところはいろんなのが出てもいいということですね、テーマに関して。

○委員長（坂本一之君） それはもちろん全然構いません。

そのテーマに関しても今からなんで、例えばこの前言った、建設でありましたけれども、あそこの残土の問題とかというのが出ているんで、残土のあれを、もう決まっちゃったことかもしれないけれども、そういうのがあったらそういうテーマにしてもいいわけですし、また会派で北部開発に関しまして、オープンするに当たって議会としてどういうことを考えているかというのをその地区の人たちに言ってもいいことだし、それは別にテーマはそのときまた考えていく。

ただ、そういう場面、場面で、今から市民にとって大きな問題になるんじゃないかというテーマをその地区へ持って行ってしゃべったほうがいいということになればそれもいいし、それとも、そんなこと関係ない、甲斐市全体のことを議論したほうがいいよということになれば今までのようなやり方でやるとか、そういうことはこの場で話し合ってもらって。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 前回のときは、皆さんの意見も聞いた中で、どれが一番多いかということで地域活性化をやったんですけれども、やってみてね、やはり意見を聞くという感じで行ったわけ、臨んだわけですね。でも、結果的に全然関係ないものもいっぱい出ちゃって、收拾結構つかなかったみたいで、結果が出なかったみたいな感じがあったわけですね。

今回、こちらから、こういうことが住民の皆さんのあれなんじゃないですかということで、あくまでもこちら側の姿勢として持っていくという感じでいいですよ。

○委員長（坂本一之君） それは保坂委員の意見なんで、また次のときそれを言っていれば、みんながそれでよければそれでいいかと思います。それはそれで意見なんで。

だから、対話集会という大きな言葉になっちゃっているから、対話なので。いろいろな市を見ますと、出前講座というのもありまして、10人集まれば、議員が行って、そこでその現状についてお話をしたりとか議会の考え方を言うというのもあります。そういうことも進めていくのも1つかなと思います。いつでも対話集会ができるような形をとっておくということで、それに関してはその地区のテーマを決めて行っているという自治体もあります。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 今ちょっと気がついたんですけども、テーマを決めるということがね、結局、組長会議というのを毎月やっていますよね、自治会で。組長さんが集まってくるわけですね。そこで、今度、対話集会というのが議会改革の中で出ているんですけども、どんなテーマがいいかというのを私たち考えていますけれども、皆さんの中でそういうのは希望がありますかとかということをお聞きして、その中で、こんなのをやってもらいたいというようなことが組長会議の中で出てくれば、それもまた逆にいいかなと思ったんですけども、そういう方法はありますか。

○委員長（坂本一之君） いいですよ。それも提案していただいて、池神委員の意見として、改革委員会でこういうことがありますけれどもこういうのをテーマにしたらいいいじゃないかという、テーマを決める段階になったらその意見を言っていただければいいかと思います。それは吸い上げていく。それは前回のアンケートと同じですよ。アンケートの中で一番多かったものが地域活性化だったので、前はそれを地域活性化をテーマにしたという経緯もありますし、それから、またそれはアンケートと同じ意味合いだと思いますけれども、それは上げていただいて、皆さんがそれでよければその方向に進みますし、例えばそれは池神委員の自治会の周辺のテーマにふさわしければ、そこでやるのかということもまたそこで決定すればいいことですし、それはいいかと思います。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） ちょっとお聞きしたいんですけども、ことし甲斐市合併10年という節目の年であります。基本的に合併のときにいろんな大きな問題があったと思います。10年たって現状、僕らがちょうど出るときに、いろんな問題がどうなっているこうなっている。さっき話あった竜王駅周辺整備とか、あの開発とか、あと、ごみの問題、水道の問題、消防の問題、警察の問題、一番大きな問題がまだ今挙げただけでも5つ6つ残っている。それを議会全体で検証したことが今まであるんですか。竜王駅をテーマにして、竜王駅周辺整備に対して議会としてどんなふうな、テーマにしてその検証を議会全体の中でやったことあ

るんですか。

○委員長（坂本一之君） 個人的に思うには、そういう機会はないですね。というのは、ほかのですね、ほかばかり言っちゃ申しわけないんだけど、富士川町あたりは、今度リニアができることによって議会の中にリニア部会というのをつくりましたよね。そういうものは一切なかったの、逆にそれは議会改革委員会の1つのテーマとして、例えば今、課題になっていることを、議員全員の中の部会をつかって、そればかりに特化した委員会で、当局を呼んで、市民からこういう意見が上がっているということでもむということも議会改革の1つじゃないですかね。

富士川町は、たしかリニア部会を今度つくりました。そして、リニアができたときどうしたらいいかということも議会として、市じゃなくて議会として考えるということなので、甲斐市は多分今まではそういうものはなかったと思いますが、それも議会改革の1つではないかなと思いますけれども。

○委員（赤澤 厚君） 今、委員長の言ったとおりなんですけれども、基本的に竜王駅周辺整備ということが一番大きな問題だと思うんですよね。それは要するに、ほかの問題、ごみとか水道の問題はよその町村も絡んでいるんでなかなか大変ですけども、竜王駅というのはあくまで単独で当然できる事業です。当然議会ばかり、執行の考えも聞いたり、議会もですね、やはり議会と執行、両輪とよく言いますね。両輪ということは、やはり議会もそれなりに勉強し、本当に執行と対等である周辺整備を考えていくということも、やはり議会として市民に対して、議会はこういうことを、皆さんの要望に応じているということも、やはり1つのこれが自分たちの市民に対してのアピールだと思う。

そういうことが1つの、さっき言ったテーマじゃないですけども、そういったテーマを上げてやっていくということもここはやはり議会改革じゃないかなと。あくまでも住民の意見を聞くんじゃなくて、自分たちがみずからそうやって事業に取り組んで、そしてその成果をやはり住民に知らしめる、報告するというのも、今後、議会改革の中で取り組む事業の一環じゃないかと。あくまでこれは今後の課題になりますけれども、そういったこともぜひできたらお願いしたいと思います。

○委員長（坂本一之君） いい意見だと私は個人的には思います。そういう部会というか、それをつくっていただいてやっていったほうがいいのかと。特にまた、竜王駅に限らず、あとは市長のほうが自分のまちでごみは処理したいという意見もありますので、そういう部会で研究していくのも、市民に対してはね、非常に議会はやっているんだな。ただ、委員会だけで

はなくて部会としてやっていくといいかと思っておりますので、またこの部会をつくるということも次の検討課題に上げればいいかなと思っております。

ほかに。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 栗山町議会に行ったときに、その対話集会のところに執行がびしっといて、出たときにその執行で答えられることがありますよね、私たちが答え切れないことを。それをびしっとそこで言うというんですよね。来た市民は確かに議員のやっていることを聞きに来るんだけど、でも、やはりしっかり執行からこうだということをきちっと聞くと満足して帰るというんです。来た市民を満足して帰すということも大事なのでというので、じゃ議会の立場というのは何だろうと思ったんです。

だから、例えばいろんな大きい、今私も自分で言っておいてあれなんですけれども、大きい問題をテーマにしてやるときには、よっぽどこっちが議会として一つにまとまった結論みたいなものを持っていかないと、かえって首を絞めるんですよね。わかんなくなっちゃったりするんです。あと、個人的な意見を述べたりになっちゃうという形になるので、その辺もよくバランス考えてテーマの絞り方もあるんだなと今思ったんですけどね。その辺のところ皆さんどんなふうにかえるのかなと思うんですけども、どうでしょうか、委員の皆さん。

○委員長（坂本一之君） じゃ、先に樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 政策の問題になりますね。会派に何で分かれているかというのがあるんですよ。ですから、共通する問題についてもそれぞれ賛成、反対、俺はどっちともつかんということになりますので、そういった取り上げ方というのはいかがなものかということで、全体でやはり統一できて、この方向で行こうということであればこれはいいと思うんですが、政策問題を一気に取り上げるというのはなかなか難しいんじゃないかなというふうに思います。議会の改革についてはこれはいいと思うんですが。

○委員長（坂本一之君） 保坂委員が言われたこともわかるんですけども、やはり議会ですので執行権がございませんのでね。ですから、それに関していいだろう悪いだろうという樋泉委員みたいな意見があってもそれはしかりだと思うんですよ。それを市民が判断して投票しているわけなので、議会でこれだけもんでいるということがわかればいいと思うんですよ。今、言ったように、これだけ議会も一生懸命やって、こういう多様な意見の中で執行と戦っているということがわかれば、私は議会としてはそれでいいかなと個人的には思うんで

すけれどもね。そこで結論を僕らは出せないですからね、執行権はないんで。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 今、委員長の言ったとおり、我々は執行権はないんですよ。基本的にそこで答弁もできないし、意見として聞いておくということを、先ほどもあったように、そこを議会に反映するというのが我々の役目。そのための住民の代弁者ということはよく選挙で言いますけれども、やはり住民の意見を議会に反映し、執行にそれをいい意味で実行してもらうというのが我々の役目だと思いますので、余りそこまで考えないでいったほうが、あくまでも聞くということで、そこで答弁できるものはしてもいいんですけども、ほとんどやはり住民の意見を聞くということが目的で考えていたほうがいいんじゃないかと思います。

○委員長（坂本一之君） 清水委員。

○委員（清水正二君） いろいろ各論出ていますけれども、前回の対話集会のときに、南アルプスとか、これは主に南アルプスの例を参考にしてやったんでね。基本的には議会のほうでやるという、事務局はお手伝いをしてもらうというふうな、そういう流れの中でやっているんですよ。どうも感覚的に見て余りにも事務局、事務局と頼り過ぎているような気がするんでね。議会改革とは何ぞやということになれば、そこから始まるんじゃないかなというふうに思うんです。

各論のほうは今から出てくるんで、今ここで各論出るというんじゃなくて、そういった方法ということの中で、対話集会もそういった中で今までと同じような、中身は別にしても、運営方法とかそういったものをやはり自分たちの中でやるのかどうかということもこれまた議論だと思うんですね。そこら辺のところをまたひとつ議論としてお願いしたいんです。

○委員長（坂本一之君） 各論に入ると大変なことになりまして、皆さんにフリートークで僕は意見をいただきたいと思っていますので自由にしゃべっていただいておりますけれども、そのときになればある程度基本を決めて取りかかっているかなければならないと思います。

この改革特別委員会に関しましては、今、清水委員のお話がありましたように、事務局にはあくまでも事務的な仕事しかしてもらわないつもりでおりますので、皆様方にも、改革に関して他市の参考にあつたら事務局出せよじゃなくて、自分で、恐れ入りますけれどもホームページなりほかの人の意見を聞くなりして勉強してきていただきたいと思います。そうしないと全く意味がありませんので、それを例えばコピーしてみんなに渡したいからというときに事務的なことを頼むのが事務局でありますので、恐れ入りますけれども、自分たちで私はやっていきたいと考えておりますので、その辺はよろしく願いをいたします。

ほかに何か、その他で次回に向けて何かありましたら。

今回は一応対話集会に関しましてやることに決定したので、会派の意見をまとめてもらうということ、それと、あと新規という言い方は変ですけども、改革委員会で検討していただきたいもの、先ほど委員さんの中から幾つかありました。それも次のときは資料として出します。それ以外に会派のものがありましたら、それにつけ加えて羅列をします。羅列する中でどれをやっていくか。そして、これは長期だから長期のところでやっっていこう、中期でやるかというようなことを第2回目の改革委員会でやっていきたいと思いますが、そのような形の進め方でよろしいでしょうか。

清水委員。

○委員（清水正二君） その会派の、例えば次のときに出すという、その期限というか、ある程度の日程を絞らないと……

○委員長（坂本一之君） 後で事務局と、議長との絡みもありますので。

長谷部副委員長。

○委員（長谷部 集君） きょうの資料の裏面の付託事項というところに、議員間の自由闊達な議論の場に関する事という付託事項があるんですけども、これについては、やるやらないじゃなくて付託事項になっているんでこれはやるということですね。

○委員長（坂本一之君） やらなきゃならないということです。これを目的に委員会ができたから。

○委員（長谷部 集君） そうですね。

○委員長（坂本一之君） きょうは報告会のことになってしまったんで、これは次のときにやりたいと思いますけれども、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） その付託事項がありまして、その他議会の活性化に関する事というのが検討課題になると思います。そして、2番目の自由闊達な議論の場、こういうことだと思うんですけどもね、全員の方が自由にしゃべれるようにということを目指しておりますので、これも全員協議会とかにもやっていくということですけども、全員協議会となると、机形式ではなかなか難しいのかなという、個人的にはしますけれども、一応付託されておりますので、これも議論に多分なってくるかと思っておりますのでお願いをしたいと思います。

ほかに何かありますか。

よろしいですか。

議長のほうから何か。

よろしいですか。

○委員長（坂本一之君） 事務局、よろしいですか。

〔発言する者あり〕

○委員長（坂本一之君） 大体、月2回だから今度は8月の、臨時会いつだったかな。

〔発言する者あり〕

○委員長（坂本一之君） その辺に、お盆が臨時会か。

〔発言する者あり〕

○委員長（坂本一之君） お盆の前の日は。

〔「農業委員会」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） 農業委員会だね。

〔発言する者あり〕

○委員長（坂本一之君） その週だ、この週じゃないとお盆になっちゃう、2回やるんじゃその週しかないだろう。だって、末になれば9月議会の委員会が入ってくるから、だから……

〔「ここは委員会があります」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） 委員会があるでしょう。そうすると、もうないじゃない。2回やるとしたら3日の週と17日の週しかないということになるね。だから、3日の週と17日の週で考えますけれども、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） あとは議長と……

○書記（石原大助君） 議会広報の担当からですけれども、8月25日に議会だよりを発行しますけれども、現在、1ページ、市民と議会の対話集会のページを予定しておりますけれども、方向性が決まらないということで今1ページあいています。それで、もし議会改革特別委員会の方向性が決まるようであれば、8月25日号に載せたいと思いますけれども、それまでは厳しいということであれば……

○委員長（坂本一之君） 厳しいね。だって、それから時期を決めるんだもんね、いつやるかもまだ……

○書記（石原大助君） 対話集会ということではなくて、先ほど言ったテーマ、中期、長期、短期というようなものが発信できれば、議会だよりに載せればと思いますけれども、それも日にちがやはり厳しくて、8月8日が最終の校正、広報の委員会が3回ありまして、7月

25日と8月2日、8月8日です。それまでに方向性が決まるようであればぜひ載せたいと思いますけれども……

○委員長（坂本一之君） 何、この改革委員会の記事を書けるといふこと。

○書記（石原大助君） はい。また広報の委員長とも話をしなければなりませんけれども。

○委員長（坂本一之君） 改革委員会の内容を載せたほうがいいよね、委員会の内容だから。ただ、対話集会をやるということだけ載せればいいよね、やる方向でということ……

〔「そうですね」と呼ぶ者あり〕

○委員長（坂本一之君） もたない。

○書記（石原大助君） そのような厳しいスケジュールの広報になっていますので、もし議会改革特別委員会の方向性を、市民対話集会ということではなくて、このようなテーマで今進んでいますというような記事を書けるといふのであれば、そのようなスケジュールになっていますので、その辺も考慮しながらご検討をお願いしたいと……。

○委員長（坂本一之君） わかりました。8日。

○書記（石原大助君） 8日が最終になりますので、5日……

○委員長（坂本一之君） 5日が第2回目。

○書記（石原大助君） 第3回目です。第4回目が8日で、あとお盆休みになってしまうので。

○委員長（坂本一之君） じゃ、ちょっと検討してやりたいと思いますけれども、できるだけ記事になるほうがいいという方向でしたいと思いますので。

あと、ホームページは変えられないの、今の現状のまま、この改革委員会の話とかそういうのは載せられないの。

石原書記。

○書記（石原大助君） 記事は掲載可能ですけれども、今、ホームページの管理を会議録研究所のほうで行ってしまっていて、こちらのほうで原稿を作成して送って、向こうのほうで記事に、ホームページに載せるような形なので、こちらのほうで自由にホームページをいじったりできないので本当に不便なんです。そこら辺も変えていかなければいけないということなんですけれども、ホームページについては、多分、議会広報のほうの担当になるといふので、そういう要望を活性化から広報の常任委員会のほうに上げていただいて、広報のほうでするような形になるといふので。

○委員長（坂本一之君） わかりました。

ということだそう。その辺もちょっと自由にいかないのですけれども。

じゃ、そのような形でよろしいですか、事務方でまた、日程はすぐ決定して、またご連絡を差し上げます。

なければ、以上をもちまして本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして議会特別委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午前11時20分